

外為ウィークリービューⅢ 南半球編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/06/27

「リスク・オフ」の動きが先行しやすい

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	↘	ギリシャと米国を前に上値が重い 予想レンジ: 82.10 ~ 85.40 円	2 - 3
<u>NZドル/円</u>	→	リスク・オフの中でも底堅い 予想レンジ: 63.20 ~ 66.50 円	4 - 5
<u>ランド/円</u>	↘	当面は南アの景況感見極めが必要な様子 予想レンジ: 11.40 ~ 11.90 円	6 - 7
<u>経済指標 カレンダー</u>	一週間の予定を一覧で表示		8 - 9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD/JPY

豪ドル/円 6/20~24の主な推移



6/20 Monday	19日夜に行われたユーロ圏財務相会合では、120億ユーロの次回融資について、ギリシャの緊縮財政法案の可決という条件が付けられ、最終決定が7月へと先送りされた。これを受け、欧州市場序盤は同国救済問題に対する先行き不透明感が強まり、時間外のNYダウ平均先物や欧州株などの下落を背景に、豪ドル/円は3月29日以来となる84.09円まで下落した(①)。
6/21 Tuesday	今月7日に開催された豪準備銀行(RBA)理事会の議事録が公表され、「国内の経済指標は利上げを正当化する緊急性は増大せず」などの内容が示されると、市場では早期利上げ観測が後退。これを受け豪ドル/円は84.48円まで急落した(②)。
6/22 Wednesday	NYダウ平均や原油相場が持ち直した事を背景に、豪ドル/円は一時85.33円まで上昇した(③)。しかしその後、米連邦公開市場委員会(FOMC)にて今年の米経済成長率見通しが引き下げられたことや、バーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長は会見で追加金融緩和に言及しなかったことを背景に、NYダウ平均が下落すると豪ドル/円は反落した。
6/23 Thursday	米新規失業保険申請件数の予想以上の増加を受けて時間外のNYダウ平均先物が下落した事や、国際エネルギー機関(IEA)が6000万バレルの石油備蓄放出を発表して原油価格が下落した事を背景に、リスク回避の動きが強まり豪ドル/円は84.24円まで下落(④)。しかし、「ギリシャ政府と国際通貨基金(IMF)・欧州連合(EU)調査団との間で緊縮財政5カ年計画に関する合意が得られた」との報道を手掛かりに、NYダウ平均が下げ幅を縮小すると、豪ドル/円は反発した。

上昇要因(豪ドル高・円安)

- ・日本と豪州の金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の後退
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・豪州の利上げ再開観測
- ・原油などの資源価格の上昇
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(豪ドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・中国の金融引き締め観測
- ・中国経済の減速懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

AUD/JPY

今週の見通し

先週は先行き不透明なギリシャの債務問題や、弱い米経済指標を背景にリスク回避の動きが強まり、主要国での株安や、原油を始めとした商品市況の下落を受けて、豪ドル/円は弱含みで推移する場面が見られた。今週も豪ドル/円はこの2つの問題を意識した展開が予想される。

まず、今週ギリシャでは緊縮財政案の採決が予定されている。市場では同国を巡る不透明感から、リスクを回避する動きとなりやすく、豪ドル/円は売られやすいと見る。なお、採決が可決された場合は同国の債務懸念が和らぐことで欧米株の反発により、豪ドル/円には反発余地が生まれる可能性もある。ただし、万一否決となる場合、同国のデフォルトが現実味を帯び、リスク回避の動きから豪ドル/円の売り圧力が強まることもありえる。

次に米国を見ると、景気停滞が長期化するととの観測を背景にNYダウ平均が軟調に推移しており、豪ドル/円の上値を重くしている。今週も米株は悪材料に反応しやすい地合いが続くと見られ、豪ドル/円は弱含みで推移する可能性もある。(川畑)

(予想レンジ: 82.10~85.40 円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線

60日線

200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ

-2シグマ



●AUD/JPY 6/24週足引値:84.41円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

豪ドル/円は引値レベルで26週線(6/24時点では84.71円)を割り込んでおり、目先は同線を巡る攻防に注目が集まりそうだ。もし同線が上値抵抗となるようだと、下落トレンド入りの可能性も予想される。

ボリンジャーバンドは6/24現在、上限:86.84円~下限:83.99円と、バンド幅は緩やかに下向きである。今後ローソク足の实体部がバンド下限で踏み留まる場合は下値模索の動きは一時的となる可能性があるものの、反対に实体部がバンド下限を押し下げると、短期的には下押し圧力が強まることも予想される。

移動平均は20日線(6/24時点では85.68円)と60日線(同、86.79円)が下向きで推移しており、上値は重そう。200日線(同、83.42円)は緩やかな上向きにつき、下押し局面で下値を支えるか注目されよう。

上値ポイントは①84.71円(26週線)、②85.37円(6/17高値)、③86.19円(6/24時点での、4/28高値89.57円からの抵抗線)であり、下値ポイントは①83.99円(バンド下限)~84.09円(6/20安値)、②83.49円(200日線)、③82.12円((3/17安値74.25円-4/11高値90.00円の値幅15.75円の2/3下押し)である。(川畑)

NZD / JPY

NZドル/円 6/20~24の主な推移



<p>6/20 Monday</p>	<p>19日夜に行われたユーロ圏財務相会合では、120億ユーロの次回融資について、ギリシャの緊縮財政法案の可決という条件が付けられ、最終決定が7月へと先送りされた。これを受け、欧州市場序盤は同国の債務問題に対する先行き不透明感が強まり、時間外のNYダウ平均先物や欧州株などの下落を背景に、NZドル/円は64.45円の安値をつけた(①)。</p>
<p>6/22 Wednesday</p>	<p>NZ第1四半期経常収支は、0.97億NZドルの赤字となった。発表後の市場では事前予想(9.00億NZドルの赤字)よりも赤字幅が大幅に縮小した事が好感され、NZドル/円はじり高で推移した(②)。</p>
<p>6/23 Thursday</p>	<p>NZ政府は、地震で被害を受けたクライストチャーチ市とその近郊の住宅のうち、建て換えが難しい住宅5000棟を買い上げる事を発表した。市場ではこの報道が好感されてNZドル買いが優勢となると、NZドル/円は65.76円まで上昇した(③)。しかしNY市場では、米新規失業保険申請件数が予想以上に増加して時間外のNYダウ平均先物が下落すると、NZドル/円は65.12円まで下落(④)。だが、「ギリシャ政府と国際通貨基金(IMF)・欧州連合(EU)調査団との間で緊縮財政5カ年計画に関する合意が得られた」との報道を手掛かりにNYダウ平均が下げ幅を縮小すると、NZドル/円は反発した(⑤)。</p>

上昇要因(NZドル高・円安)

- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・NZの追加利上げ観測
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(NZドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・NZの追加利上げ観測の後退
- ・中国の金融引き締め観測

巻末の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

今週の見通し

先週、先行き不透明なギリシャの債務問題や、弱い米経済指標を背景にリスク回避の動きが強まる場面が見られたものの、NZドル/円は底堅く推移した。今週のNZドル/円はこれらの材料により上値が押さえられる可能性があるものの、今月9日のNZ準備銀行(RBNZ)政策金利発表の際に今後2年間の段階的な利上げを示唆した事が手掛かりとなり、底堅い推移が予想される。

今週、ギリシャでは緊縮財政案の採決が予定されている。市場では同国を巡る不透明感から、採決が可決されるまでの間は不安定な相場展開が予想され、NZドル/円の上値を押さえそうだ。もし無事に可決されれば、市場ではギリシャ支援に向けた前進として受け止められ、リスク回避の動きが和らぎ、欧州株の序章によりNZドル/円は上昇する展開が予想される。ただし、万一否決となる場合、同国のデフォルトが現実味を帯び、リスク回避の動きからNZドル/円の売り圧力が強まる展開もありえる。(川畑)

(予想レンジ: 63.20~66.50円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線 60日線 200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ -2シグマ



●NZD/JPY 6/24週足引値65.22円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

NZドル/円は5/31高値67.41円以降、概ね64円台半ば~66円台半ばでのレンジを形成しており、上下どちらか抜けた方に方向感が出る事が予想される。ただ、20日線が抵抗となりつつある現状では、ローソク足が同線を突破できないと上値は重いと見られ、バンド下限下抜けが試されやすそうである。

ボリンジャーバンドは6/24現在、上限: 66.70円~下限: 64.40円であり、バンド幅は一定ながらもわずかに下向きとなっている。6月半ばの下押し局面ではバンド下限が下値となっており、ローソク足の実体部がバンド下限を押し下げるか注目したい。

ローソク足は20日線(6/24時点では65.55円)が上値抵抗となっている。仮に同線が60日線(同、65.23円)を下抜ける場合、相場は200日線(同、63.23円)を試す動きとなる可能性もある。

上値ポイントは①引値レベルで65.55円(20日線)、②66.50円(6/9高値)~66.70円(バンド上限)、③67.41円(5/31高値)であり、下値ポイントは①64.34円(6/16安値)~64.40円(バンド下限)、②63.23円(200日線)、③62.54円前後(5/5安値)である。(川畑)

ZAR/JPY

ランド/円 6/20~24の主な推移



6/21
Tuesday

日経平均株価や上海株の上昇を背景に、ランド/円はじり高で推移する中、ムニヤンデ南アフリカ準備銀行(SARB)チーフエコノミストは講演で「強いランドは経済成長にとって脅威ではない。安定的なランドを望む」などと述べた。市場ではランド高容認ともとれる発言を受け、ランド/円は上値を伸ばした(①)。なお17時発表の南ア第1四半期経常収支は878億ランドの赤字と、予想(808億ランドの赤字)よりも赤字幅が拡大したが、市場の反応は薄かった。

6/22
Wednesday

日経平均株価の上昇を背景に、ランド/円は一時11.94円の高値をつけた。その後17時発表の南ア5月消費者物価指数は前年比+4.6%と予想(+4.4%)を上回り、2010年5月以来の伸びを示した。しかし発表後のランド/円の反応は薄く、時間外のNYダウ平均先物の下落を背景に、ランド/円は弱含みで推移(②)。ランド買いが盛り上がらなかった背景には、前日のムニヤンデSARBチーフエコノミストの「コスト・インフレだけを理由にSARBが利上げを行うことはない」との発言も意識された模様。

6/24
Friday

ギリシャの与党議員が同国の緊縮財政案に反対票を投じるとの報道や、7月13日に公表される欧州ストレステストにて、イタリアの銀行2行が不合格との観測が浮上した事を背景に、欧州株が下落するとランド/円も下落。NY市場でもNYダウ平均や原油価格の下落を背景に、リスク回避の動きが強まると、その後ランド/円は11.60円の安値をつけた(③)。

上昇要因(ランド高・円安)

- ・日本と南アの金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価や資源価格の上昇
- ・新興国への投資の機運の高まり
- ・利下げ懸念の後退
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(ランド安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価や資源価格の下落
- ・南ア経済の低迷

巻末の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今週の見通し

先週のランド/円相場は、先行き不透明なギリシャの債務問題を背景にリスク回避の動きが強まり、主要国での株安や、原油を始めとした商品市況の下落を受けて、週末にかけて弱含む場面が見られた。今週、ギリシャでは緊縮財政案の採決が予定されており、ランド/円相場にも影響を及ぼす事が予想される。もし可決された場合はこの問題を取り巻く懸念が和らぎ、ランド/円は反発する可能性もある。ただし、万一否決となる場合、同国のデフォルトが現実味を帯び、リスク回避の動きからランド/円は売り圧力が強まる展開もありえる。

なお、先週発表された南ア5月消費者物価指数は1年ぶりとなる高い伸びを示したことで、一部では年内にも南ア準備銀行(SARB)が利上げを行うとの観測が浮上したものの、依然として少数意見の域を出ない。その背景には今月21日のムニヤンデSARBチーフエコノミストの発言がある模様であり、同国の利上げ観測が高まるためには、インフレ以外にも消費や経済成長率(GDP)などの上昇や失業率の低下が必要と考えられる。今週南アでは5月の生産者物価指数や貿易収支の発表が予定されているものの、いずれも市場での注目度は高くないことから、ランド/円相場へ与える影響は限定的となる可能性がある。(川畑)

(予想レンジ:11.40~11.90円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

〔ボリンジャーバンド〕

20日線 60日線 200日線
+2シグマ -2シグマ



●ZAR/JPY 6/24週足引値:11.64円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

ランド/円は6月に入り、20日線を中心にバンド幅内での往來が続いている。24日にはバンド下限を下抜ける場面も見られたが、ローソク足の実体部はバンド下限で下支えされており、今週はバンド下限を巡る攻防に注目したい。もしバンド下限を割り込む場合、相場はそれまでのレンジ相場から下落トレンド入りとなる可能性がある。

ボリンジャーバンドは6/24現在、上限:12.00円~下限:11.64円と、バンド幅はほぼ横ばい。現在はレンジ相場が続いていることを示唆している。ただし、ローソク足がバンド下限を押し下げる動きへとつながる場合、相場は下落トレンドが発生することもある。

移動平均は20日線(6/24時点では11.82円)、60日線(同、11.99円)、200日線(同、11.89円)いずれも横ばいで推移。ただ、ローソク足はいずれの移動平均線の下であり、かつ、20日線がこれらの線の中で一番下にあることから、引き続き上値が重い展開が予想される。

上値ポイントは①11.70円(6/23安値)、②11.82円(20日線)、③11.94円(6/22高値)であり、下値ポイントは①引値レベルで11.64円(バンド下限)、②11.59円(5/25安値)、③11.43円(5/13安値)である。(川畑)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (6/27~30)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
6/27	07:45	○	(NZ) 5月貿易収支	+11.13億NZD	—
(月)	21:30		(米) 5月個人支出 [前月比]	+0.4%	+0.4%
	21:30		(米) 5月個人所得 [前月比]	+0.4%	+0.1%
	21:30		(米) 5月PCEデフレーター [前年比]	+2.2%	+2.4%
	21:30		(米) 5月PCEコア・デフレーター [前月比]	+0.2%	+0.2%
	21:30		(米) 5月PCEコア・デフレーター [前年比]	+1.0%	+1.1%
	26:00	○	(米) 2年債入札(350億ドル)	—	—
6/28	15:00		(独) 7月GfK消費者信頼感調査	5.5	5.3
(火)	17:30	○	(英) 第1四半期GDP・確報値 [前期比]	+0.5%	+0.5%
		○	(英) 第1四半期GDP・確報値 [前年比]	+1.8%	+1.8%
	17:30		(英) 第1四半期経常収支	-105億GBP	-45億GBP
	22:00	○	(米) 4月S&P/ケース・シラー住宅価格指数 [前年比]	-3.61%	-4.00%
	23:00	○	(米) 6月消費者信頼感指数	60.8	61.5
	23:00	○	(米) 6月リッチモンド連銀製造業指数	-6	-2
	未定	○	(独) 6月消費者物価指数・速報 [前月比]	±0.0%	+0.1%
		○	(独) 6月消費者物価指数・速報 [前年比]	+2.3%	+2.3%
	26:00	○	(米) 5年債入札(350億ドル)	—	—
6/29	08:50		(日) 5月鉱工業生産・速報 [前月比]	+1.6%	+5.5%
(水)			(日) 5月鉱工業生産・速報 [前年比]	-13.6%	-6.1%
	17:30		(英) 5月消費者信用残高	+5億GBP	+4億GBP
	17:30		(英) 5月マネーサプライM4・確報 [前年比]	-0.9%	—
	18:00		(ユーロ圏) 6月消費者信頼感・確報 [前年比]	--	—
	20:00	○	(加) 5月消費者物価指数 [前月比]	+0.3%	+0.2%
		○	(加) 5月消費者物価指数 [前年比]	+3.3%	+3.2%
	23:00		(米) 5月中古住宅販売成約 [前月比]	-11.6%	-1.0%
	26:00	○	(米) 7年債入札(290億ドル)	—	—
6/30	07:45		(NZ) 5月住宅建設許可 [前月比]	-1.6%	—
(木)	08:01		(英) 6月GfK消費者信頼感調査	-21	-24
	16:55	○	(独) 6月失業率	-0.8万人	-1.3万人
	16:55	○	(独) 6月失業者数	7.0%	7.0%
	17:00		(ユーロ圏) 5月マネーサプライM3・季調済 [前年比]	+2.0%	+2.2%
	18:00	○	(ユーロ圏) 6月消費者物価指数・速報 [前年比]	+2.7%	+2.8%
	18:30		(南ア) 5月生産者物価指数 [前年比]	+6.6%	—
	19:00		(日) 外国為替平衡操作の実施状況(5月30日~)	0円	—
	21:00		(南ア) 5月貿易収支	-24億ZAR	—
	21:30	○	(加) 4月GDP [前月比]	+0.3%	-0.1%
	21:30	◎	(米) 6/25までの週の新規失業保険申請件数	42.9万件	--
	22:45	◎	(米) 6月シカゴ購買部協会景気指数	56.6	54

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (7/1)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
7/1	—		香港休場(特別行政区成立記念日)、トロント休場(建国記念日)		
(金)		○	(日) 5月全国消費者物価指数 [前年比]	+0.3%	+0.1%
	08:30	○	(日) 5月全国消費者物価指数 [前年比: 除生鮮]	+0.6%	+0.5%
	08:30		(日) 5月失業率	4.7%	4.8%
	08:50	○	(日) 日銀短観 [大企業製造業業況判断]	6	-7
		○	(日) 日銀短観 [大企業製造業先行き]	2	2
			(日) 日銀短観 [大企業非製造業業況判断]	3	-4
			(日) 日銀短観 [大企業非製造業先行き]	-1	0
			(日) 日銀短観 [設備投資計画: 前年比]	-0.4%	+2.0%
	17:30	◎	(英) 6月PMI製造業	52.1	52.5
	17:30	○	(ユーロ圏) 5月失業率	9.9%	9.9%
	22:55		(米) 6月シガン大消費者信頼感指数・確報値	71.8	72
	23:00	◎	(米) 6月ISM製造業景況指数	53.5	52.0
	23:00		(米) 5月建設支出 [前月比]	+0.4%	±0.0%

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。